

ロンドン・ナショナル・ギャラリー展

国立西洋美術館（東京・上野公園） 2020.06.23～10.18

国立国際美術館（大阪・中之島） 2020.11.03～2021.01.31

会期変更 東京展の入場は日時指定制

「ロンドン・ナショナル・ギャラリー」は、1824年に設立された英国の美術館で、多くのヨーロッパの美術館とは異なって、王室の収集品を母体とはしないで、“市民により市民のために形成されたこと”に最大の特徴がある。

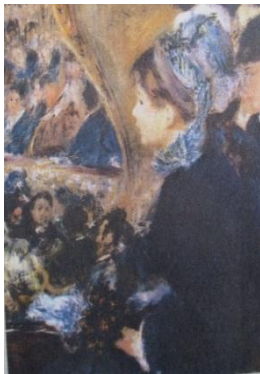
そのコレクションは、英国を含む幅広い地域とヨーロッパ絵画を網羅し、13世紀後半から20世紀初頭までの名品「約2,300点」を所蔵し、年間の来場者数は「およそ600万人」と世界の美術館・博物館でも最高とされている。

本展は、これまで門外不出とされていた作品が、世界で初めて日本で公開され、「ゴッホ」「フェルメール」「ベラスケス」「ターナー」などの英国が誇る至宝とされる著名な作品が奇跡とされる初来日として注目されている。

フィンセント・ファン・ゴッホ 《ひまわり》 1888年 油彩/カンヴァス

画伯は、共同生活を送っていた「ポール・ゴーガン」のために、花瓶に生けた「ひまわり」の作品を4点描いているが、本作はその最後の作品で“**多彩なトーンと筆致で描き分けられた黄色の調和が際立つ**”代表的な作品である。

P・Oルノアール 《劇場にて（はじめての外出）》 1876年油彩/カンヴァス



画伯の印象派時代の作品で、色づかいとしては「黒」は使わないで、人物の周囲は輝く多様な色に彩られて、色彩の深さは群青色で表現されている。

モデルの少女のポーズ、構図、雰囲気の設定全てが造形的に計算つくされていて、成人して一人前の女性としての扱いを受ける、いわば社交界へのお目見えのようなお祝いを描いた作品である。つまり、少女の心理的なういういしい緊張という精神内部の問題が主観となっている。

J・M・Uターナー 《ポリュフェモスを嘲るオデュッセウス》 1829年油彩/画布



古代ギリシャの偉大なる詩人「ホメロス」の叙事詩第9歌に記される光景で、ひとつ目の巨人「ポリュフェモス」の棲む火山島に漂着した英雄「オデュッセウス」が襲われかけるものを、巧みに酒宴を開き巨人が泥酔したところで、眼を潰し脱出した場面を描いた作品である。